

第1回 総合計画策定委員会 作業部会(全部会合同)
議事要旨

■日 時：

令和4年(2022年)8月22日(月)【第1部】10:00~12:00【第2部】14:00~16:00

■場 所：オンライン

■出席

部会員：企画財政室長、人事室長、情報政策室長、都市計画室長、資産経営室長、税制課長
市民部参事(市民課・市民部次長市民課長事務取扱の代理)
都市魅力部次長地域経済振興室長兼務、人権政策室長、広報課長、市民総務室長
市民自治推進室長、シティプロモーション推進室長
文化スポーツ推進室参事(文化スポーツ推進室長の代理)、文化財保護課長
福祉総務室長、健康まちづくり室参事(健康まちづくり室長の代理)
生活福祉室長、高齢福祉室長、障がい福祉室長、成人保健課長、母子保健課長
保健医療総務室参事(健康医療部次長保健医療総務室長兼務の代理)
健康医療部総括参事地域保健課長事務取扱、衛生管理課長、児童部次長子育て政策室長兼務
健康医療部参事(母子保健課)、子育て給付課長、家庭児童相談室参事
のびのび子育てプラザ所長、保育幼稚園室参事(保育幼稚園室長の代理)
こども発達支援センター長、まなびの支援課長、学校管理課長
学校教育部次長学校教育室長兼務、教育センター所長、中央図書館長、青少年室長
地域教育部次長放課後子ども育成室長兼務、危機管理室長、環境保全指導課長
総務予防室参事(消防本部次長総務予防室長兼務の代理)
公園みどり室参事(公園みどり室長の代理)、計画調整室長、開発審査室長、住宅政策室長
総務交通室参事(土木部次長総務交通室長兼務の代理)、地域整備推進室長
下水道部次長経営室長兼務、水道部企画室参事(水道部企画室長の代理)

事務局：行政経営部長、企画財政室 参事、主幹、主査、主任

■欠席

教育未来創生室長、市民総務室参事、道路室長

■議事

1. 開会
2. 案件

【報告】

- (1) 第4次総合計画見直しの基本方針及び体制、スケジュール・本日の到達点
(資料1・資料2・資料3・資料4)
- (2) 人口等 実績値及び今後の推計 (資料5)
- (3) 第4次総合計画 進捗状況報告 (資料6)
- (4) 第4次総合計画見直しに向けた市民周知・参画手法 (資料7)

【依頼事項】

- (1) 第4次総合計画見直しに向けた庁内照会(資料8-1, 8-2, 8-3, 8-4)

【グループワーク】

(1) 社会情勢 (資料9)

(2) 社会情勢の変化を踏まえた第4次総合計画見直しポイントの整理 (資料10)

3. その他

■配布資料

- 資料1 総合計画策定委員会設置要領及び名簿
- 資料2 第4次総合計画見直し体制・スケジュール
- 資料3 吹田市第4次総合計画中間見直しの基本方針について(令和4年3月25日 政策会議資料)
- 資料4 第4次総合計画見直しスケジュール・本日の到達点
- 資料5 第4次総合計画中間見直しに係る人口推計について
- 資料6 第4次総合計画 進捗状況報告 (R2 まで)
- 資料7 第4次総合計画見直しに向けた市民周知・参画手法
- 資料8-1 第4次総合計画見直しに向けた庁内照会シート
- 資料8-2 第4次総合計画見直しに向けた庁内照会シート記入要領
- 資料8-3 (参考資料) 第4次総合計画見直しに係る施政方針整理
- 資料8-4 (参考資料) 第4次総合計画見直しに係る重点取組整理
- 資料9 社会情勢の変化
- 資料10 グループワーク「すいたの未来予想」

1. 開会

行政経営部長：

第4次総合計画が策定されてから3年が経過し、現在、令和6年度からの計画後半期間に向けて、中間見直しの検討を始めているところ。見直しに当たって総合計画の素案の策定を円滑に行い、職員参画を推進するために、両副市长及び部長級の職員で構成される策定委員会の下に本作業部会を設置している。第4次総合計画策定後、中核市移行やコロナ禍など様々な社会情勢の変化があった。これらを踏まえ、今後の見直しの内容について各作業部会において議論していただきたい。ぜひ、活発に意見交換をしていただき、よりよい総合計画となるよう、御協力をお願いしたい。

2. 案件

【報告】(1)～(4) (資料1～7)

事務局：(資料説明)

【第1部】

(質疑なし)

【第2部】

水道部企画室参事：

出張アンケートを実施するとのことだが、何か所での実施を予定しているのか。

事務局：

3か所での実施を予定している。1日で1か所、合計3日間をかけて実施する。

【依頼事項】(1)(資料8-1~8-4)

事務局：(資料説明)

(質疑なし)

【グループワーク】(1)~(2)(資料9~10)

事務局：(資料説明)

【第1部】

(質疑なし)

【第2部】

広報課長：

「すいたの未来予想」では、何年先の未来について考えるのか。

事務局：

第5次総計開始時の2029年でもよいし、人口減少局面に入る2030年以降でもよい。それぞれのグループで判断し、議論いただきたい。

【グループワーク発表】予想される「すいたの変化」

【第1部】

グループA：

- ・ 2030年ごろまで人口は増えるが子供は減っていく。保育所の受入れは落ち着いてきているが、子育て世代への施策を考えていく必要がある。
- ・ 共働きの世帯と配慮が必要な子供が増えていることを考慮する必要がある。
- ・ 虐待件数が増えているのは、通報が適切になされているということだが、課題に対応していきたい。
- ・ 北部は子供が増えているが、南部は減少している。南北の子供の数の差への対応を検討する必要がある。
- ・ 保育現場の担い手の育成に寄与していきたい。

グループB：

- ・ 今後想定される多様な変化について、何が起きるかについて話し合った。
- ・ 高齢化の進展によって、働く高齢者も増える。地域コミュニティも弱体化していく。地域力が低下していく可能性がある。

- ・ 高齢化の進展によって身体障がい者も増えていく。
- ・ 大阪・関西万博による変化はどのようなものがあるか。
- ・ デジタル化の進展で、人に会わなくても仕事ができるようになっていく一方、人間関係の希薄化の懸念がある。
- ・ 貧困層の高齢者の増加に対する懸念がある。

グループC:

- ・ 少子高齢化、格差社会の拡大ということで、子供の貧困、ICTの推進、環境の変化に伴う生活様式の変化について話した。

グループD:

- ・ 地域コミュニティの担い手の高齢化が大きな課題。よりよく生きる、という思考を持たれている高齢者や GIGA スクール構想について話した。また、生産年齢人口の高齢化によって従来どおりのサービス提供が難しくなる。
- ・ 図書館については紙での提供から電子図書の提供も進めていく。紙とのバランスをどのように取って進めていくか。
- ・ 学校教育において、子供の数が増えていて、先生が不足している。先生の質が下がらないように質も確保していきたいと思っている。

【第2部】

グループA:

- ・ 特に、DXとスポーツ推進について議論した。
- ・ DXについて、キャッシュレス化が進んでいくということ、その中でも特にQRコードが中心になるという意見が出された。
- ・ スポーツ推進については、eスポーツやスケートボードのオリンピック競技化など多様化が進んでおり、施設のあり方そのものに影響があるという意見があった。

グループB:

- ・ 予想される変化では、人権と市民参画の2点が話題に上がった。人権に関する社会変化として、性的マイノリティに対する理解が進んでいくことが予想されるということ、市民参画では各自自治体の自治会加入率が低下することなどが挙げられた。
- ・ デジタルデバイドは、年齢層が上がるに従って増加するのか、あるいは減っていく可能性もあるのか、検証が必要である。

※グループCは当日、他のグループと統合。

グループD:

- ・ 人口増減による税収入やインフラのニーズ等への影響について議論した。
- ・ インフラは人口がピークの時点を基準に整備するが、今後人口が減少に転じた際に、どのような課題が生じ得るのか、という点について話し合った。その他、地震災害によって都市のあり

方が変わるという意見が出された。

グループ E :

- ・ 都市形成についての話が主だった。シェアサイクルの普及や道路交通法の改正によって電動キックボードの流行が予想されるなど、移動手段の多様化により公共交通のあり方に変化が出てくるとか、緑地や自然の機能強化が求められているということへの指摘があった。

グループ F :

- ・ まちづくりについて議論した。中核市に移行し、屋外広告物についての規制の事務が移譲されたことで、市民から景観についての要望が高まるのではないかと。
- ・ また、リニアの開通に伴い、吹田市にも何らかの役割が求められるようになるのではないかと。
- ・ 通販の増加によって物販商業施設の需要が減ることも予想される。
- ・ 以上の変化を踏まえると、吹田市の都市構造が変化することが考えられる。
- ・ 高度経済成長期に建設されたマンションが老朽化し、建て替え・更新の時期を迎えているが、なかなか進まないことが課題である。
- ・ 学校についても高度経済成長期に建てられたものが多く、10 年後頃から建て替えにより財政的な負担が増えるのではないかとという意見があった。

【グループワーク発表】「すいたの未来予想」

【第 I 部】

グループ A :

- ・ 出生数の減少を踏まえ、0 から 5 歳児については子育て施策の支援が必要。行政サービスについて SNS 等で情報発信するほか、一時預かり等の育児負担軽減のための施策が求められる。
- ・ 特定妊婦への継続支援や性教育、子供の居場所づくり、相談対応のスキルアップを行っていく必要がある。

グループ B :

- ・ 高齢化の進展という観点では、デジタルデバイド対策が課題である。高齢者の IT リテラシーの強化が求められる。
- ・ その他、介護人材の確保が求められる。身体介護は難しくても見守り等 ICT で対応できるところから取組を進める必要がある。
- ・ 地域コミュニティの希薄化については、災害時の要援護者に対する支援を強化する必要がある。
- ・ 気候変動による高齢者の熱中症対策も強化が求められる。

グループ C :

- ・ 社会保障費や健康づくりのための取組を進める必要がある。その他、コミュニティや企業・学校と連携しながら進めていきたいという意見が出た。

グループD:

- ・ 将来的な人材不足についてどのように対策するかという話をした。社会のリソースを利用し、学校を介して実施していきたいと思う。コロナ禍前は学校とつながりがあったが分断されてしまった。
- ・ 「タダ働き」となっているボランティアの現状を見直す必要がある。
- ・ 配慮が必要な子供の増加について、医師や専門家の意見の吸い上げが必要だが、公的機関のみでは対応が難しいのではという意見も挙げられた。

【第2部】

グループA:

- ・ キャッシュレスについては、使ってもらう側と使う側の両方の視点を持って取り組むことが重要である。使ってもらう側の視点として、どのアプリケーションが使いやすいのか、高額商品にどの程度使えるようにするのかについて基礎自治体レベルで対応することは難しい。一方、使う側の視点として、スマートフォンを持っていない方や高齢者に対しては基礎自治体としての対応が必要であると思われる。
- ・ スポーツ多様化については、多様化するニーズに合わせて施設を作っていくことが求められるが、単に新しく作るだけでは施設の数が増えすぎてしまうため、近隣他都市や民間施設との連携も必要になる。他都市の施設の利用を促進するためには、送迎手段等の支援が吹田市として必要になるかもしれない。

グループB:

- ・ 性的マイノリティへの理解度向上については、配慮・啓発、具体の支援や施策が必要になる。
- ・ 自治体の加入率が低下していることについては、地縁ではない新たな人と人とのつながり方が増えているので、その点を考慮した対策が必要である。

グループD:

- ・ 人口増減に伴い、増加したときにインフラを整備した後、減少するときにダウンサイジングが課題に挙げられる。広域連携の取組が必要。
- ・ 急激な都市開発で人口が増えることは望ましくないが、大規模な開発が吹田市の中でされているのではという議論があった。
- ・ 地震、大雨により、消防の指令本部連携が近隣他市との間でなされているが、具体的な対応は各市に求められている。今後は、連携の中で事務の委託等を行うことも考えられる。広域連携という観点では、上下水道の共同化、統廃合等も今後検討する必要がある。
- ・ 更なる大雨への対応ということで、多額の費用が必要になることが懸念される中、ハード・ソフト両面での対応が求められている。

グループE:

- ・ 移動手段の多様化に係る公共交通の衰退は、民間事業者・行政・鉄道事業者の3体で対策を講じていくことが求められる。将来的に行政による支援が必要になるのではという話になった。
- ・ 緑地・自然の機能強化については、グリーンインフラ等の戦略的活用が重要であり、併せて意

識向上等の啓発活動を行っていく必要があるという意見があった。

グループF：

- ・ 市民の景観に対する要望に応えるために、対応ガイドライン等の仕組みづくりが必要である。
- ・ そのことにより吹田ブランドの価値が上がり、人口増にも寄与するのではないか。
- ・ 吹田市は立地的に優位であるため、吹田に求められるものに着目することが重要である。
- ・ 商業施設のニーズがなくなることに対しては、用途変更等、ハード・ソフト両面の施策が必要になる。
- ・ 公共施設の建て替えが増えることに関しては、減価償却費に対する資金を積み立てていくことが対策になるのではないか。

3. その他

事務局：

次回は10月上旬頃の開催を予定している。また、10月5日にSDGs研修の実施を予定している。改めて案内するが、ぜひ御参加いただきたい。

■意見整理表

	予想される変化	今後の対応策
人口減少・ 少子高齢化	出生数が死者数より下回っている。 0-5歳が減少し、増加しないことが予想される	<ul style="list-style-type: none"> ・減少する年齢の人口増に向けた子育て施策が必要。保育支援の充実など。 ・情報発信の手法を検討し、より充実したものとする。
	高齢化の進展 (障がい者の増加)	デジタルデバイド対策、介護予防の推進
	生産年齢人口の減少 (医療・介護)	介護人材の確保、介護のICT化
	貧困高齢者の増加	—
	少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの強化が大切。皆が長く働けるような施策→行政だけではなく、企業・学校等と連携。 ・いつまでも働けるような働き方改革も必要。 ・積極的ではない人をどう関わらせられるか。少し後押ししたら行動する人たちを変える。 ・地域力、人との関わり合いが増えるようにする。 ・個人だけに任せるのではなく、地域の住民が健康づくりに取り組めるよう、サポーター制度を強化する。
	人口が増加した後に減少に転じる	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道及び水道などのインフラに関しては、人口ピークに対応できるよう整備を行った後、減少に転じた場合は、ダウンサイジングや他市との施設の共同運用、広域連携など検討する必要がある。 ・都市開発による急激な人口増加は、過大校問題が生じることも。
	医療費、介護費の増加	—
格差社会の拡大、貧困の固定化	—	
子供の福祉	共働き家庭の数が増加、配慮を必要とする児童	きめ細やかな支援が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育の充実（より利用しやすい施策を検討） ・男性の育休取得 ・一時預かりの充実 ・支援利用に係る経済的支援 ・おむつ無料配布

	予想される変化	今後の対応策
子供の福祉	虐待数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・特定妊婦への継続的な支援 ・性教育 ・貧困 WG での引き続いての検討 ・相談対応者等のスキルアップを図る ・子供の居場所づくり
	保育現場の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬の引き上げ ・労働条件の充実
	吹田市内の南北問題。北部は子供が増えているが、対応できるようにしたい。	
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育→留守家庭、教職員共に更に人材不足となる。 ・教職員の質の担保が更に課題となる。 ・今までの形で同じサービスを継続するのは難しくなる。 ・今までのように技術革新により乗り越えられる部分と乗り越えられない部分が出てくる。 ・公民館の役割がより問われるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育：すでに様々な課題がある。教職員の不足、質の担保は大きな課題である。 ・将来的な人材不足をどうするか。 ・社会のリソースを活用していくべきではないか。企業、大学、公民館を核とした地域のコミュニティ。→学校がハブになれる可能性がある。 ・元々、学校と地域は結び付いていたので、まずはそこを元の状態に戻すべき。 ・タダ働きになっていることについては不満の声も出ているので、有償にする等、形を変える必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育→今もなお課題があり、様々な取組を進めてはいるが、さらに課題が深刻化すると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮が必要となる子供の増加が見込まれる。専門的知見を要するため、今後、医学等、様々な専門家との連携も必要となる。
	市内大学との連携の弱体化	—
ICT、DX	感染症対策をしながらの施策推進	可能な業務について ICT 化を図る。
	デジタル化の推進	高齢者の ICT リテラシーの推進
	ICT の推進	—
	紙かデータか、この両方をどう適切に使い分けていくのか、さらに問われるであろう。飛躍的に進んだ電子図書であるが、高齢者にとっては難しいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・従来どおりのサービスの仕方では成り立たないのではないかと。 ・図書館：紙からデジタルへ急速に進んだ。デジタルについていけない高齢者への対応が必要。
	2040 年以降には一定の人がデジタル機器を使えるかも。	デジタル技術による詐欺、フィッシング詐欺等の増加への対応。

	予想される変化	今後の対応策
ICT、DX	<p>皆が現金を持たない時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードから QR コード決済まで ・マイナンバーカードの普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス化推進の課題 店舗側の課題…導入コスト等 使う側の課題…スマホが必要？ 皆に持ってもらうための施策、使い方が分からない人へ →国、他自治体の動向（豊中市ではオリジナル QR 決済）
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・更に担い手不足が見込まれる。 ・地域の担い手の委嘱の年齢を引き上げてはいるが、横展開が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代の ICT リテラシーを育む取組が必要。 ・GIGA スクール構想の実現により、デジタル・ネイティブの子供達が身に付けた情報活用能力を地域社会に還元できないか。 ・公民館はウエル・ビーイングの思考を持っている高齢者にしっかりと対応できるように。 ・GIGA スクールで身についた力を社会へ有効活用できないか。
	自治会の加入率が減り続けている。	<p>転入者・地縁がない人が増、地縁はないがネットにつながっている、今どきのつながり方。</p> <p>自治会の加入率ではない指標がいるのでは</p>
	地域コミュニティの希薄化、地域力の低下	地域共生社会の推進
防災・環境	緑地・自然の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラ等の戦略的推進・活用 ・意識高揚のための周知、触発活動の推進
	必ず起きるとされる 大地震をはじめとする自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードの整備には多額の費用と長期の工事期間を要するため、ハードだけでなくソフト面での対策が必要。 ・消防指令機能の広域連携が開始されるが、対応は応援要請があった場合を除き、各市町村が自ら行うことになっている。
	気候変動による災害の多発	災害時要援護者への支援
	気候変動による温暖化	高齢者の熱中症対策
まちづくり	<p>中核市になり屋外広告物法の事務権限移譲により、市民の景観に対する要望が多くなる。</p>	<p>市民要望に対する仕組みづくりが必要。</p> <p>吹田ブランドの価値が上がり、人口減少に効果がある。</p>
	<p>リニア開通などで広域的な吹田市の役割が求められる。</p> <p>通販が多くなり、物販などの商業施設の需要が少なくなる。</p>	<p>吹田はまちづくり的には有利な立地。吹田に求められるものに着目して検討。</p> <p>商業施設は 1 サイクル 20 年ぐらいなので、建物の寿命まで利活用ができるように、ソフト・ハード面で変化できるような制度ができれば。</p>

	予想される変化	今後の対応策
まちづくり	民間マンションが資金難で建て替えができないものが増える。	建設から維持管理、解体までの LCC を想定した資金計画を立てることを必須とする。 吹田は土地の価値が高いため、流通に乗せる仕組みづくり。
	高度成長期に建設した、学校などの公共施設の建て替えが多くなる。	減価償却費に応じた基金への積み立てが必要。（将来負担も考慮）
	移動手段の多様化による公共交通の衰退（公共交通利用者の減少）	・事業者・市民・行政が一体となった利用促進策の推進。 ・行政による事業者への支援。
	インフラの老朽化	－
スポーツ	スポーツ需要の多様化 多様化が進んでいる、ニュースポーツ、eスポーツ等	・現在、スポーツ推進計画を策定中 施設を多種目で使えるようにする（複合化）、専用化、近隣市や他部署（公園等）との連携を考える。
性的マイノリティ	より誰もが暮らしやすい街（考え方が進む）	LGBTQ への配慮、行政のあり方も変化を求められる。 啓発だけではない具体的施策 パートナーシップ制度
ライフスタイルの変化	災害、コロナ、温暖化等環境の変化からくる生活様式の変化	－
	ライフスタイルの変化の劇的加速	吹田市としてどこまでついていけるか？